

第3回 北海道型作業システムモデル路網整備計画検討委員会 (概要)

第3回北海道型作業システムモデル路網整備計画検討委員会の会議においては、前日の現地踏査結果を踏まえ活発な意見交換が行われました。主な意見は3のとおりです。

1 日時

平成24年9月25日 13:00～16:30 (現地)

平成24年9月26日 9:00～12:00 (会議)

2 会場

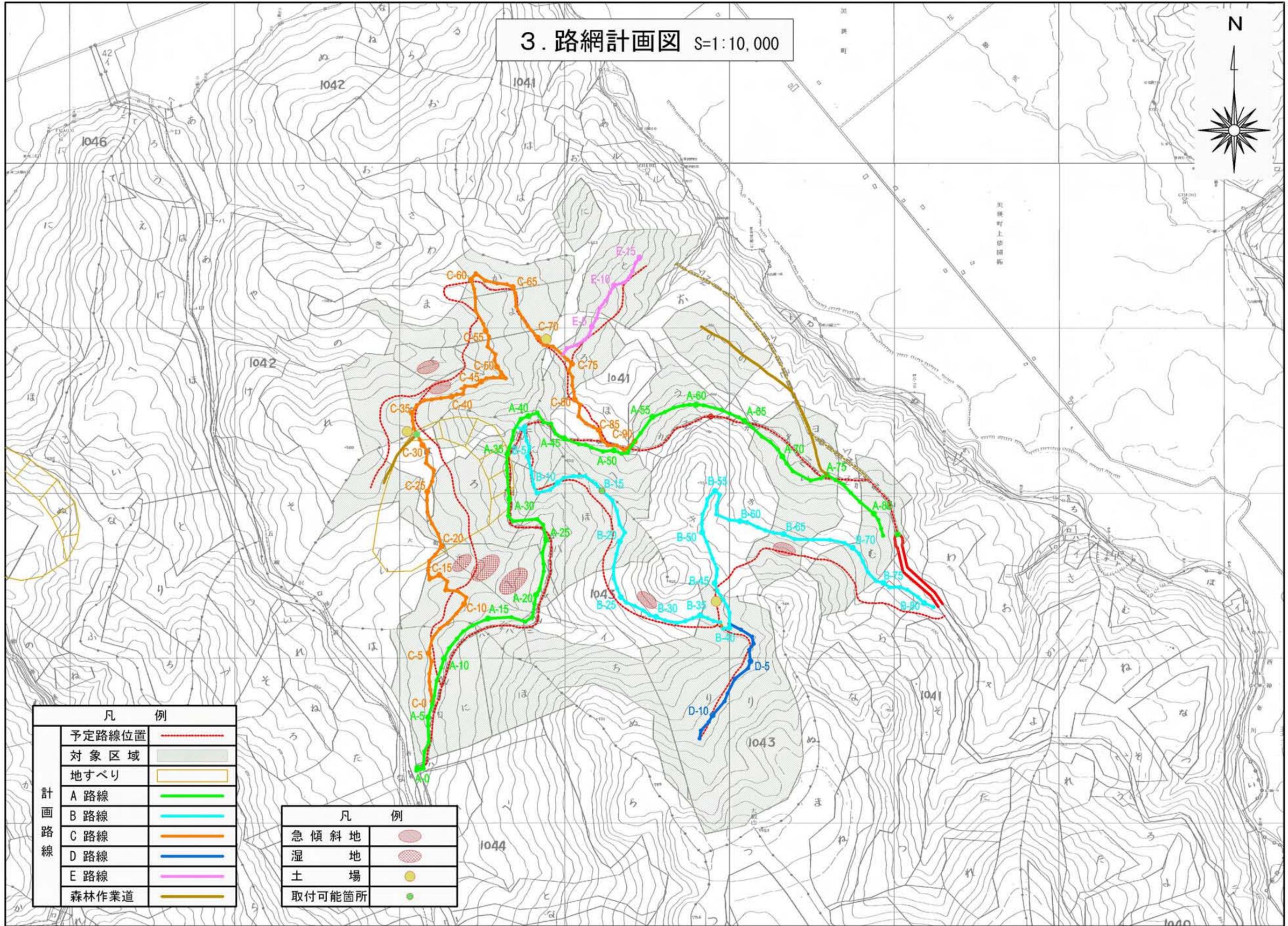
上川中部森林管理署 1041～1044林班 (現地)

上川中部森林管理署 大会議室 (会議)

3 主な意見

- 大きな切土・盛土が発生する路線はないが、主尾根に沿って複雑な地形をしていることから、この地域で地すべり等に関する文献がないか調べる必要がある。
- A路線は、しっかりとした路盤であり、トラックが通行する上での問題はないと思われる。現在の道を改良して使用することでよいのではないかと。
また、沢渡り箇所については、既設のコルゲートパイプを加味した流量計算を行うことで過大とならないよう留意し、コンクリートによる洗越しを検討できないか。
- B路線およびC路線は、一部9%程度で設定している縦断勾配を急にすることで、滑らかな線形とすることができるのではないかと。
- C路線は、地すべり分布図に載っている箇所を通過しており、上部には湿地帯も見られることから、現地で穴を掘って地質や地下水の状況を確認する必要があると考える。
地盤が軟弱であることが予想されることから、良質土による盛土施工や側溝の設置が必要と考える。
流量が少ない沢渡り箇所については、洗越しを検討できないか。
- D路線は、1043林班ち小班へ向かうようルートを変更することで、より有効な路線となるのではないかと。
- E路線は、尾根付近を通るルートとすれば、縦断勾配が緩くなるのではないかと。
A路線と繋げで循環路線とするのは地形条件等から困難である。
- 作業システムとあわせて検討していく上で、作業地での沢渡りに対する考え方を整理する必要がある。
- 林業専用道から林内へアクセスできる取付可能箇所を明示して、路網計画図を検討することが重要である。
- 土場の設定箇所と保安林協議の関係について、次回までに整理してほしい。
※想定ルート名については「路網計画図」を参照

3. 路網計画図 S=1:10,000



凡 例	
予定路線位置	-----
対象区域	■
地すべり	■
A 路線	———
B 路線	———
C 路線	———
D 路線	———
E 路線	———
森林作業道	———

凡 例	
急傾斜地	●
湿地	■
土場	●
取付可能箇所	●